

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 Ⅲ 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都府立鳥羽高等学校	全校生徒数	1065名
実践学年、部、講座等	第3学年 普通科第Ⅲ類体育系（1クラス）・運動部活動系（1クラス） 第1・2学年 普通科スポーツ総合専攻コース（2クラス） 文科スポーツコース（2クラス） 計 240名		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情(○) 卓越(○) 尊重(○)	
	オリンピック・パラリンピック教育を行う事で2020年東京オリンピック・パラリンピックに様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。		
実践内容	大山加奈（元全日本女子バレーボール選手）を講師に招き、『スポーツから学んだこと』をテーマに、競技に対しての姿勢や、感謝する心、オリンピックに出場までの紆余曲折を講演して頂いた。		
実施上の留意点等	事前学習として講師のプロフィールなどを実施した。		
主な成果 (分析結果)	・自分の頑張りは周りに伝染する。 ・周りから応援される選手になることの重要性を理解する。（たくさんの方々からエネルギーをもらえる）その為には、何事にも一生懸命努力することが大切であること。 ・オリンピックは特別な能力を持った選手がなるのではなく、ごく普通の選手が夢を持ち続け、その実現に向けてあきらめる事なく自らを磨き、困難を克服することで誰にでもなれる可能性はある。 等が生徒達の心に残った内容であった。		
主な課題等	・継続的に取り組む事で、生徒達の意識改革につながる。 ・講演をするに当たって講師費用が安価すぎる。素晴らしい講演をお願いするにはそれなりの代価が必要なので、体育系設置校合同で行うなど工夫が必要。 ・どんな競技でも良いが、実際にトップのプレイヤーの試合を観戦する機会が欲しい。 ・人間力を高める学習に繋がる為に、競技者以外の方々から学ぶ事も重要。		

講演の様子①



講演の様子②



女子バレーボール部との交流



実践事業	【IV】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都府立 鳥羽高等学校	全校生徒数	1068名
実践学年、部、講座等	第2学年スポーツ総合専攻クラス、文科スポーツコースクラス、文科クラス 披講研究部		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○) 卓越 () 尊重 (○)	
	和歌・短歌を通じたオリンピック・パラリンピックの普及啓発活動 オリンピック・パラリンピックと京都文化の融合及び融合成果の発信 スポーツにおける感動・共感・友情を表現し伝える力の育成		
実践内容	冷泉貴実子先生による冷泉流和歌の作歌指導及び披講歌の選定 選ばれた和歌の披講による披露（2月11日 於. 金剛能楽堂） スポーツをテーマにした現代短歌の作歌指導		
実施上の留意点等	オリンピック・パラリンピックと芸術・文化活動との融合や意義を理解させる。		
主な成果 (分析結果)	事後のアンケートによると、スポーツをテーマにした短歌を詠んだ生徒のうち約60%弱が、スポーツと芸術・文化の融合や意義を理解し、機会があればまた取り組みたいと答えた。 また、古典和歌に取り組んだ生徒達も、同じく約60%弱が今後の取り組みに意欲を見せていた。 取り組み当初は、オリンピック・パラリンピックと文化・芸術との関係が生徒に適切に伝わるかどうかを危惧していたが、事後指導としての「教育レガシー共創フォーラム」の効果もあり、多くの生徒がこの事業の意味を理解し、今後に対しても意欲的な回答をしたのは成果だと言える。		
主な課題等	1 実施時期の設定（年間の授業計画の中での位置づけ） 2 事業に対する教員の理解		